

## 自己点検・評価について

## ① プログラムの自己点検・評価を行う体制 東北文化学園大学自己点検及び自己評価運営委員会

(責任者名) 加賀谷 豊

(役職名) 学長

## ② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
	プログラムの履修・修得状況	<p>本教育プログラムは、令和7年度入学者から実施しているため、プログラムの履修・修得状況の点検・評価については、令和7年度終了後に実施する予定である。</p> <p>履修状況については、履修率が18%と高いとは言えない数値を示しているが、これは令和7年度にプログラムが開始されたことによるものである。本教育プログラムの必須科目は全学共通基礎科目(1年配当・必修)であり、全学生が1年次に履修登録を行うことになるため、4年間で全学生が履修する見込みである。</p>
	学修成果	<p>本教育プログラムは、令和7年度入学者から実施しているため、学修成果の点検・評価については、令和7年度終了後に実施する予定である。</p> <p>本教育プログラム構成科目の授業評価アンケート結果を分析することにより、授業内容に対する学生の理解度を把握する。分析結果は教務委員会及び自己点検・評価運営委員会に報告し、本教育プログラムの点検評価・改善に活用する予定である。</p> <p>また、本教育プログラムの必須科目の修得は、全学科・専攻の卒業要件となっていることから、卒業を目指すための履修指導は、プログラム修了のための履修指導を兼ねることになるため、全学的な不断の改善が継続的に実施されることになる。</p>
	学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度	<p>本教育プログラムは、令和7年度入学者から実施しているため、授業評価アンケート等を通じた学生の内容の理解度の点検・評価については、令和7年度終了後に実施する予定である。</p> <p>本教育プログラム構成科目の授業評価アンケート結果については、教務委員会において分析を行い、必要に応じて理解度向上を図るため、授業内容等の改善に取り組む予定である。</p>
	学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度	<p>授業評価アンケート結果は、大学ポータルサイト及び大学ホームページで公開されており、後輩学生や他の学生はその評価結果を履修前に確認できるようになっている。</p>
	全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本教育プログラムの必須科目は、全学共通基礎科目(1年配当・必修科目)であり、全学生が1年次に履修登録を行うことが前提となっているため、4年間で全学生が履修する計画である。</p> <p>また、選択科目については、2年配当科目であることから、令和8年度に向けてホームページやハンドブックの掲載内容の充実を図り、学年初めのガイダンスや学生ポータルサイトで、学生が本教育プログラムを受講する意義とあわせて周知を行い、履修率の向上を図る予定である。</p>

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本教育プログラムは、令和7年度入学者から実施しているため、令和10年度以降、プログラム修了者が卒業した後に進路調査を行い、活躍状況や企業等からの評価を把握できる体制を構築する予定である。
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本学の外部評価委員会において、本学のAI教育の状況等を説明し、外部委員から本教育プログラムの内容や手法について意見を聴取する予定である。 なお、実施時期については、プログラム初年度終了後の令和8年度から定期的に行う予定である。
	数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本学において数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させるためには、学生が専攻する理学療法学、作業療法学、言語聴覚学、視覚機能学、社会学、社会福祉学、経営法学、工学の各分野での活用事例などを示すことが有効だと考えている。例えば、データ分析等の演習では、各学科・専攻の専門分野に関連するデータを用い、社会で実際に活用されている分析手法を取り入れることで、専門分野の学修と有機的に結びつけ、「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」を実感できるよう工夫している。
	内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること  ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	履修学生の修得状況や、授業評価アンケートの結果等を参考に、授業の内容や実施方法等の見直し・改善を行う予定である。 また、本教育プログラム実施に当たり、本学教員が中心となりMDASHリテラシーレベルに準拠した教科書を出版し、授業で使用している。この教科書は、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な内容を、あらゆる分野で学ぶ学生ができるだけやさしく身につけられることを念頭に書かれたもので、内容・水準を維持・向上しつつ、「分かりやすい」授業とする一助となっている。今後、社会の変化や生成AI等の技術の発展が見られた場合には、教科書の内容を見直すとともに、より教育効果が得られる授業内容や方法について検討を行うことを予定している。